



MEDICAL NEWS 2010 夏号



梅雨の季節がやって来ますね。子供たちが楽しみにしている夏休みも間近となりました。お出かけの計画は立てましたか。

MEDICAL NEWS では、医療情報や家庭での看護などを中心に掲載しております。夏号では夏に多く見かけるウイルス性の感染「ヘルパンギーナ」・「みずぼうそう」をテーマに掲載いたします。

☆ヘルパンギーナとは

突然 39℃前後の高熱が出てのどの奥の粘膜に水疱や浅い潰瘍（かいよう）ができます。しみて、唾液を飲み込むのもつらくなります。

乳児は不機嫌、哺乳力低下、よだれ、嘔吐、幼児は食べ物を飲みにくくなり、頭痛や背部痛（筋肉痛）を伴います。哺乳力低下や水分が摂れないことにより脱水を起こすこともあります。ウイルスに対しての「特効薬」はなく、症状に対する治療が中心です（対症療法といいます）。どうしても水分が摂れず、脱水症状がある場合には医師の判断により点滴をして「水分と電解質」を補充することもあります。熱があっても、とくに具合が悪そうでなければ、イオン飲料をこまめに摂らせ、のどにしみにくい食事を与えましょう。熱がさがり、のどの痛みがなくなるまで幼稚園や学校は、4～5日お休みしましょう。

☆みずぼうそう（水痘：すいとう）とは

みずぼうそうは「水痘-带状疱疹ウイルス」による感染症です。それも初感染によると言われています。潜伏期は、10-21 日ですがほとんど 14-16 日です。感染後 14 日前後くらいに発疹が出ます。発熱は 2～4 日くらいあることが多いですが、出ない方もあります。アトピー性皮膚炎の人は、水ぼうそうを掻きむしって、アトピーがひどくなることがありますし、健康なこどもでもまれに、脳炎などを引き起こし重症になることもあります。すべての発疹がかさぶたになるまでは人にうつす可能性が大です。かさぶたになったら、登園・登校は許可されます。

みずぼうそうは一度かかると、ウイルスが生涯にわたり体内に潜伏して、大人になっても体調不良の時に「带状疱疹：たいじょうほうしん」となって出てくることがあると言われています。

みずぼうそうに対しては、ワクチンがあります。集団生活で感染拡大がよくありますので、入園・入学前に接種するようにしましょう（自費）。1 歳以上で接種可能です。

☆お知らせ

・生後 3 ヶ月以上で、BCG 接種しかしていないお子さんは、次に様々なワクチン接種を控えています。DPT（ジフテリア・百日咳・破傷風混合）ワクチン（公費）や肺炎球菌・ヒブワクチン（それぞれ自費）などの早めの接種をお勧めいたします。ワクチン相談を個別で行いますので遠慮なくお尋ねください。一緒にスケジュールを立てましょう。

・クリニックのお盆休みは 8/10～15 を予定しております。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。